



# 緑の募金

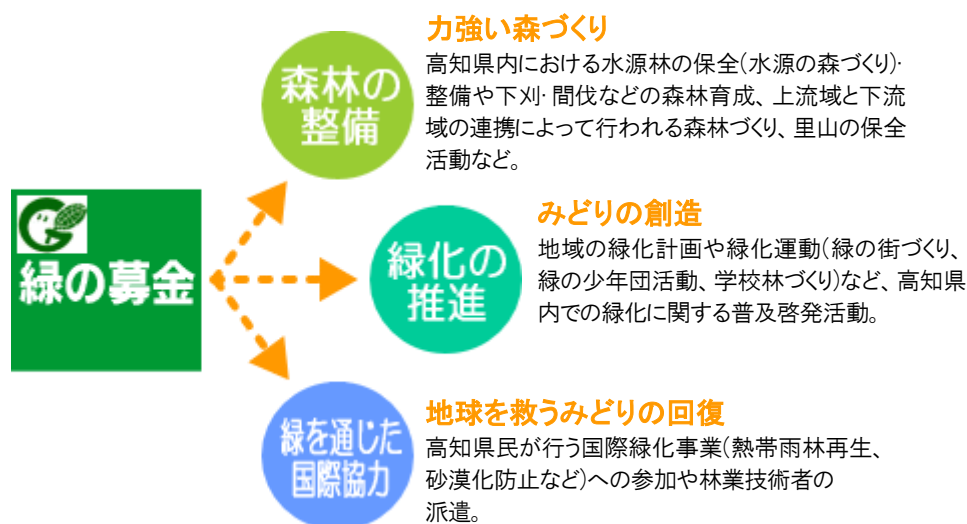
## 公募事業報告集

【令和3年度】

公益社団法人高知県森と緑の会

## はじめに

緑の募金事業は、緑のボランティア活動を支援し、国民参加の森林づくり運動として展開することにより、国内はもとより地球規模で森林づくりを進めることを目的として、平成8年以降「緑の募金法」に基づき、全国で森林の整備、緑化の推進、緑の国際協力の3分野の事業を実施しています。



高知県では、公益社団法人高知県森と緑の会が「緑の募金」への寄付を募り、その管理運営を行っています。寄付いただいた緑の募金は、高知県内のさまざまな事業に活用されており、その主要事業としてボランティア団体等が行う地域に密着した森林の整備や緑化の推進に関する公募事業に助成しています。

令和3年度の公募事業には、6団体から6件の申請がありました。事業の原資となる緑の募金総額は平成30年に大幅に減少し、令和2年に過去最低額となりました。そのような厳しい状況ではありますが、ボランティア団体等の支援は緑の募金で支援すべき事業と考え、1,800千円の交付額を予定して運営協議会で審議し、その後の理事会で5団体5事業に対して総額1,783千円の交付が決定となりました。最終的な交付実績は5団体5事業で総額1,733千円となりました。

緑の募金にご協力いただいた方々や関係者の皆さまに事業について報告し、募金の意義や役割を認識していただくことは、今後の募金活動を維持・発展させていくうえで大変重要です。そこで、毎年報告集を作成して関係者に配布するとともに、当会ホームページに掲載し、各事業の概要についてご紹介しています。

県内の団体の皆さまにおかれましては、今後の活動の参考にしていただくとともに、県民の皆さまの緑の募金への理解の一助になれば幸いです。

今後とも、緑の募金へのご協力をよろしくお願いいたします。

令和4年4月

公益社団法人高知県森と緑の会

## [目次]

令和3年度緑の募金公募事業一覧表	1
------------------	---

### 【森林の整備】

令和3年度入野松原松苗植樹事業	2
山林保全育成事業	3
船戸地区里山緑化プロジェクト	5
大野見島ノ川溪谷景観づくり事業	7
奥物部みやびの丘再生事業	9

## 令和3年度緑の募金公募事業一覧表

### 森林の整備

番号	事業名	実施団体名	事業概要	実施場所	団体の所在地	実施日	交付額 (事業総額)
1	令和3年度入野松原松苗植樹事業	入野松原保存会	名勝入野松原で森林病虫害による松枯れが広がっているため、植樹による松林の再生を図り、入野松原を後世に引き継ぐことを目的に、地元の小学生と植樹活動を行う予定であった。しかし、コロナウイルス感染防止の観点から植樹活動は中止となったため、関係者15名で松苗400を植樹した。	黒潮町 入野松原	黒潮町	令和4年 2月18日	360,000 (400,000)
2	山林保全育成事業	仁淀川流域山林保全育成の会	高知県を代表する日本一の清流仁淀川上流域の水源涵養機能を高めるため、仁淀川町寄合大ヒラタの皆伐跡地に仁淀川上流から下流の関係者75名が参加して広葉樹1,000本を植樹した。伐採後の株からの萌芽等を適度に残して、自然の再生力を生かしながら植樹との調和を図った。森-川-海のつながりを意識した森づくり活動を通じて、水源の森づくりの大切さを普及啓発できた。	仁淀川町 寄合大ヒラタ	いの町	11月7日	400,000 (1,011,641)
3	船戸地区里山緑化プロジェクト	船戸活性化委員会「四万十川源流点」	船戸地区は地区活性化の取り組みとして「四万十川源流点」を活かした「四万十川源流ウォーキング」や「茶畑ウォーキング」等、四季折々のイベントを行い、地域内外との交流を行っている。この景観を後世に引き継ぐとともに地元住民の森林や水環境に対する認識を深めていくため、植樹活動を行った。コロナウイルス感染防止の観点から地区住民のみでの植樹となったが、春に咲く桜100本、ハナモモ50本、秋を彩るモミジ50本を植樹し景観整備を行った。	津野町 船戸宇古土居	津野町	令和4年 2月6日 2月27日	400,000 (570,359)
4	大野見島ノ川溪谷景観づくり事業	島ノ川溪谷等修景緑化推進委員会	島ノ川溪谷を活かした地域活性化のため、春に楽しめるミツマタや秋に楽しめるモミジを植樹してきた場所に、今回はモミジ159本を植樹した。一般公募で植樹する予定だったが、コロナウイルス感染防止の観点から関係者18名での植樹となった。今後は、地域主催のイベント等を開催し地域振興と森林保全の普及啓発を行っていく。	中土佐町 島ノ川地区	中土佐町	令和4年 2月～3月	288,000 (372,680)
小計							1,448,000

### 緑化の推進

番号	事業名	実施団体名	事業概要	実施場所	団体の所在地	実施日	交付額 (事業総額)
1	奥物部みやびの丘再生事業	三嶺の森をまもるみんなの会	鹿の食害によりササ枯れが顕著となったみやびの丘に平成30年度に防鹿柵を設置したことによりササが回復するとともに後継樹が育つなどの効果が出ていた。しかし、未設置の場所では被害が進行し、一部でササが枯れた後が裸地状態となり土砂の流出が起きていた。そのため、既設の柵の周辺に新たな柵(2カ所・418m)を設置し、土砂が流出している場所にマットを設置(1カ所・120㎡)した。また、柵内にツルギノミツバツツジとミズナラの稚樹を各10本植樹した。雨天による延期のため当初より参加者が減ったが、一般参加者50名、団体関係者等19名が参加した。	香美市物部町 東熊山国有林 (みやびの丘)	香南市	5月23日	285,000 (285,797)
小計							285,000
合計							1,733,000

## 森林の整備 1

事業名	令和3年度入野松原松苗植樹事業	団体名	入野松原保存会
実施場所	黒潮町入野松原	実施日	令和4年2月18日
団体の所在地	黒潮町		
<b>事業の目的</b> 黒潮町の国の名勝「入野松原」は黒潮町のシンボルであり、防潮・防風林の役割を果たしている。しかし、近年は深刻な松枯れが広がっており、平成30年度は2,000本以上、令和元年度は2,500本以上の枯れ松を伐倒するなど被害は大きくなっている。令和元年度から樹幹注入や薬剤の地上散布時期の変更等の対策を行っているが、今後も対策を継続し、松苗の植樹を行うことで松林の再生を図る。			
<b>事業の概要</b> 平成30年度から毎年松苗400本の植樹を行っており、令和3年度も枯れた後の空白地に松苗400本を植樹した。松林を後世に引き継ぐために、普及啓発を兼ねて地元の小学生と一緒に植樹する予定であったが、新型コロナウイルス感染防止の観点から中止となり、団体の会員や関係者15名で植樹を行った。			

### 事業の様子



## 森林の整備 2

事業名	山林保全育成事業	団体名	仁淀川流域山林保全育成の会
実施場所	仁淀川町寄合大ヒラタ	実施日	令和3年11月7日
団体の所在地	いの町		
事業の目的	高知県を代表する日本一の清流仁淀川上流域の水源涵養機能を高めるため、仁淀川町寄合大ヒラタの皆伐跡地に仁淀川上流から下流の関係者により広葉樹を植樹する。自然の再生力も生かして、伐採後の種子の芽生えや株からの萌芽を適当に残して、その樹種も育てながら植樹との調和を図り、山林の整備もしながら大ヒラタの森として親しめる環境を整える。		
事業の概要	仁淀川流域の行政や関係者、一般公募で集まった参加者等 75 名が参加して、皆伐跡地にケヤキ 200 本、トチノキ 200 本、ヤマザクラ 200 本、イロハモミジ 150 本、クヌギ 150 本、イヌシデ 100 本の合計 1,000 本の広葉樹を植樹した。森-川-海のつながりを意識した森づくり活動を通じて、水源の森づくりの大切さを普及啓発できた。		

### 事業の様子





### 森林の整備 3

事業名	船戸地区里山緑化プロジェクト	団体名	船戸活性化委員会「四万十川源流点」
実施場所	津野町船戸字古土居	実施日	令和4年2月6日(日)・27日(日)
団体の所在地	津野町		
<b>事業の目的</b> 船戸地区は平成22年3月の船戸小学校廃校を機に地区活性化の取り組みをはじめ、地区が誇る「四万十川源流点」を活かした「四万十川源流ウォーキング」や「茶畑ウォーキング」等、四季折々のイベントを行い、地域内外との交流を重ねながら活動を行っている。今回の事業では、この景観を守り、後世に引き継ぎ、また地元住民も森林・緑、四万十川をはじめとする水に対する認識を改めて深めていくために森林整備および緑化を行う。			
<b>事業の概要</b> 春には桜やハナモモが満開となり、秋には紅葉に染まる里山が地域のシンボルとなるように、一般公募で2月20日(日)に植樹イベントを行う予定であったが、大雪のため2月27日(日)に延期となった。また、コロナウイルス感染防止の観点から地区住民のみでの植樹となった。2月6日(日)に団体関係者・地区住民16名で地拵え等の植樹の準備を行い、2月27日(日)に関係者・地区住民22名が参加して、陽光桜100本、ハナモモ50本、イロハモミジ50本を植樹した。これにより、住民の地元の森林を大切にしないといけないという認識が深まった。			

2月6日(日)植樹準備の様子





2月27日(日)植樹当日の様子



## 森林の整備 4

事業名	大野見島ノ川溪谷景観づくり事業	団体名	島ノ川溪谷等修景緑化推進委員会
実施場所	中土佐町大野見島ノ川地区	実施日	令和4年2月～3月
団体の所在地	中土佐町		
<b>事業の目的</b> 平成28年度から島ノ川溪谷に春に楽しめるミツマタを植樹してきたが、近年紅葉時期の見物客が増えているので、紅葉スポットとするための植樹を行う。植樹の際には地域ボランティアを公募し、森林保全の普及啓発に努める。また、今後はウォーキングイベントで植樹の取り組みを紹介するなど普及啓発につなげる。			
<b>事業の概要</b> 2月から3月初めの4日間に団体関係者のべ12名により植樹場所の地拵え等の事前準備を行った。植樹当日は一般ボランティアを募って行う予定であったが、コロナウイルス感染防止の観点から一般公募は中止し、団体関係者や地域住民等18名が参加して3月5日(土)にモミジ159本を植樹した。秋を彩るモミジを植樹したので、これまで以上に魅力が増した溪谷を楽しんでもらえるよう地域主催のイベント等を行い、地域振興と森林保全の普及啓発を行っていく。			

事前準備の様子(2月11日、21日、22日、3月4日)



植樹当日の様子 3月5日(土)



## 緑化の推進 1

事業名	奥物部みやびの丘再生事業	団体名	三嶺の森をまもるみんなの会
実施場所	香美市物部町東熊山国有林 (みやびの丘)	実施日	令和3年5月23日(日)
団体の所在地	香南市		
<b>事業の目的</b> 鹿の食害によりササ枯れが顕著となったみやびの丘に、平成30年度に防鹿柵を設置し、その後、柵内のササが回復するとともに後継樹が育つなどの効果が出ている。しかし、未設置の場所では被害が進行し、一部でササが枯れた後が裸地状態となり土砂の流出が起きている。今回の事業では、既設の柵の周辺に新たな柵(2カ所・400m)を設置し、土砂が流出している場所にはマットを設置(2カ所・500㎡)してみやびの丘の再生を図る。			
<b>事業の概要</b> みやびの丘南面に防鹿ネット235m、東斜面に183mの計418mのネットを設置した。裸地状態となった斜面には土砂流出防止マット12枚(120㎡)を設置した。また、現地で採取した種子を育てたミズナラの苗木10本とミツバツツジの苗木10本の植樹を行った。高知中部森林管理署との共催で事業を実施し、団体関係者19名、一般ボランティア50名の69名が参加した。当初は5月22日(土)に実施予定だったが、天候と現地の状況を考慮し23日(日)に延長したため参加者が予定の2/3に減ったが、今回の活動により下層植生が回復し、森の再生が図られることが期待できる。			

### 事業の様子



防鹿ネットの設置



土砂流出防止マットの設置



育てた苗木の植樹



代表の依光氏が参加した大学生や一般ボランティアに三嶺の食害について説明した。



1円からはじめる森づくり。緑の募金はあなたから森へのプレゼント。



緑の募金に関するお問い合わせ  
緑の募金事業に関するお問い合わせ

公益社団法人 高知県森と緑の会  
〒781-8010 高知市棧橋通6丁目7番43号  
総合保健協会合同庁舎5階  
TEL : 088-855-3905 FAX : 088-855-3906  
Email : [info@moritomidori.com](mailto:info@moritomidori.com)  
URL : <http://www.moritomidori.com/>